

# 「さあ、みんな、考えよう」

## みなさんは誇りを持って自分の学びの場に親を招待できますか？

### ○その1・「天王寺中学校夜間学級」授業参観より

柘植中学校3年生は毎年7月に大阪市立天王寺中学校夜間学級を訪問し、交流学习をする場を持たせていただいています。生徒たちの学びを体感し、生徒と学びを共有したいという思いで、柘植中学校のPTA組織の中の人権研修部[クローバーサークル]では、天王寺中学校夜間学級が同じく7月に実施する授業参観に参加しています。本年は7月12日(木)にその授業参観に参加してきました。

#### 中学校夜間学級とは？

義務教育年齢のころ、戦中・戦後の混乱や部落差別による義務教育未修了者、在日コリアン、帰国者、修学猶予・免除の障がい者、難民や新規渡日者、不登校やひきこもりを経験した若者など、さまざまな人が集い、学んでいます。2013年度時点で、全国には公立夜間中学校が35校、自主夜間中学校が28校あります。しかし、横浜市にあった公立夜間中学校5校のうち、2014年度から4校が廃止され1校になり、公立夜間中学校は31校になってしまいました。

#### 内容は「部落解放」2014年6月号から抜粋・要約

#### 天王寺中学校夜間学級

2017年11月30日現在で43人の生徒が通っています。10代の生徒もいますが、50代7人、60代19人、70代8人、80代以上が4人通っています。国籍別では、日本17人で、韓国・朝鮮籍20人を含んで中国、台湾、マリ籍の生徒が計26人在籍しています。女子生徒が多く35人が在籍しています。夕方5時30分からの学級活動で出席確認やその日の予定等の確認のあと、5時40分から40分授業で8時50分まで4コマの授業が行われています。

天王寺夜間中学校の7月12日の授業参観では、1限目はすべて国語の授業で、学習到達段階に応じて4クラスに分かれての授業でした。学習進度に応じて3つのクラスでは漢字の読み方、いちばん発展的内容のクラスは「風切るつばさ」という文章を読み解いていく授業でした。

2限目は各クラスごとの授業で数学、英語、美術が行われました。数学の授業は文章題で、方程式を利用して買い物での場面での計算問題などを解いていました。

英語の授業は、ローマ字の学習でした。大文字のローマ字で書かれたものを小文字に書き換えたり、小文字で書かれたローマ字を大文字に書き換える練習でした。授業開始のチャイムがなり、出席確認が行われ、各生徒は先生の呼名に返事をしていきました。30代から40代くらいと思われる男子生徒の出席確認の時に、先生が「いつもはいちばん前の席に座っているのに、今日はいちばん後ろの席にすわっているんですね」とたずねられたことに対して、その生徒は「今日は母親が授業を見に来てくれているんです。隣に座っているのが母親です。よろしくお願いします！」と紹介し

ました。

授業はまずは歌「大きな古時計」を英語の歌詞で歌うことから始まりました。その歌にはカタカナで英語の読み方のようなものがふりがなとしてつけられていました。その男子生徒は机を寄せて、母親にプリントを見せて、今歌っているところを指で押さえながら、大きな声で母親に教えながら歌っていました。母親も指で押さえられた文字を目で追いながら、自分の息子さんのリードをもとに一生涯懸命に口を動かしていました。その後のローマ字の授業でも、母親に説明しながらプリントを書きすすめる姿がありました。

## ○その2・8月3日「鳴門市人権地域フォーラム」より

### ○フォーラムのテーマ

2018年度 鳴門市人権地域フォーラム

「ひとごと」から「わがこと」へ ～自己を見つめ、語り、人と人がつながる人権学習～

### ○フォーラムの概要

「ひとごと」から「わがこと」へのキーワードそのままに、毎年、「学習者が学習者を変えていく人権学習」を実践する場として、パネリストや会場からの意見が参加者の心を揺さぶり、一人ひとりの人権意識が磨かれ、自己を見つめて人と人がつながるフォーラムとなっています。また、パネリストの語りによって参加者のみなさんと語り合い、部落問題を「ひとごと」ではなく「わがこと」としてとらえ、部落差別解消への営みを確かなものにし、一人ひとりの人権意識を高め、すべての人々の自己実現を可能にする人権のまちづくりをめざします。

### ○本年度のフォーラム

徳島県で中学校時代に語り合いながら人権学習を経験してきた3人のパネリストの中学校時代の学び、その学びからの生き方、現在の思い等の発信をもとに考えるフォーラムでした。現在、介護福祉士、会社員、養護教員をしている3人のパネラーは、このフォーラムのコーディネーターをしている中学校教員である森口健司さんの教え子でした。部落に生まれ、または部落にルーツを持つパネラーが、語り合うことでつながった中学校での人権学習をめぐり、社会人になりました。語り合うことでつながった中学校時代のなかま、自分の親、今の生活のなかであらたにつながったなかまへの思いなどを熱く語ってくれました。

今から3年前の本通信「さあ、みんなで、考えよう」11月号(2015年11月発行)に「結婚にゆれる同和地区出身の若者と彼女の話」と題した話を掲載し、結婚に際しての自分、彼女、それぞれの親、なかまたちの様子などをお伝えしました。この話に登場した若者の一人が、今回のフォーラムのパネリストの一人(以下、Nさん)でした。

Nさんは中学校時代にコーディネーターである森口健司先生がすすめる全体学習を何度か受けました。人権学習をすすめるときに語られる自分の本音やなかまの真の姿は隣の教室には見えません。人権学習では、みんなの思いを共有し、語り合い、つながることを大切にしたいということから、クラスの壁をとっばらい、学年全体で語り合う学習として展開されたのが全体学習でした。結婚したNさんは子どもを持つ親となりました。苦労をしてくれて育ててくれた両親を誇りに思い、自分が受けてきた全体学習や語り合った自分やなかまを誇りに思うなかで、自分の子どもに、どのように部落問題を教えていくのかを考えていきます。その子どもに自分が語るときに恥ずかしくない生き方となかまとのつながりを大切にしたい日常づくりをしています。会社で働くNさんは、会社のなかで使用する物に部落差別にあふれた落書きを発見しました。このことをなかまとも話し合うなかで、落書きをした同僚に正しく知ってもらい、なかまにしていくことを考えていきます。現在、つれあいさんの家に婿養子として入り、その家族を大切にするとともに、自分を生み、お金もないなか苦労して育

ててくれた実の両親への感謝と誇りを感じています。何度か今回のフォーラムのような場でパネラーとして自分の経験や思いを語ってきたNさんは、今回のフォーラムにはじめて自分の両親を招きました。そして、自分の親や家族、なかまへの感謝、差別解消への熱い思いを語りました。その様子を会場両親はうなずきながら、じっくりと聴いていました。

## 「ひとつごと」から「わがこと」へ

今回の鳴門市人権地域フォーラムにはじめて両親を招いたNさんは、今回、愛知から会場にきてくれた3人のなかまをステージ上から紹介しました。

結婚したNさんは、自分の家族と徳島の居酒屋で飲んでいました。そのそばで、一人で飲んでいる若者がいました。一人でいる人を放っておけないNさんは、その若者に声をかけ、初対面である二人は飲み始めました。意気投合した二人は真夜中までその店で飲み、語り合いました。相手の若者は愛知県出身で、一人旅で徳島にやってきました。遠くはなれていた二人でしたが、その後も連絡をとりあい、3回目くらいにあったときに、Nさんは自分が部落出身であること、部落差別への思いなどを語りました。その若者は学校で部落差別に関して詳しく学んでいませんでした。そのようななかでしたが、Nさんの語る話にしっかり向き合い、話を聞いているうちに泣きながらこう語りました。「なんでこんな熱い、いいやつが部落差別受けやなあかんねん！俺はくやしい」

愛知に戻ったこの若者は、徳島で出会ったNの話を実際の自分のなかまに話をしました。Nさんは徳島のなかまにこの若者の話をしました。お互いがお互いの住んでいるところで話をし、その話でつながったなかまが何度となく徳島で会い、語り合い、飲みあかしました。

今回のフォーラムでNさんが発表することを聞いた愛知の若者は平日開催のこのフォーラムに参加するために仕事の休みをとり、同様に休みをとったなかまをつれて、3人で会場に来ていました。

フォーラム終了後、このフォーラムでマイクをにぎって語り合ったなかまや、森口先生の教え子やNさんの同級生など、20数人で懇親会をしました。Nさんは徳島のなかま数人をつれ、愛知のなかま3人も参加しました。すでにこの3人のなかまはNさんの同級生数人とは何度も飲みあった仲でした。懇親会の会場では、Nさんは両親への思いを再び熱く語りました。それを涙を拭きながらきいている愛知のなかまがいました。学生時代に学校で深く部落問題について考える機会なく生きてきたなか、今、「わがこと」として感じている愛知の3人も自分自身の思いを語りました。

Nさんが中学校時代の1994年に、全国への公開授業として行う全体学習が始まる前に、みんなで歌を歌ってから丸岡忠雄さんの詩「ふるさと」を資料とした全体学習がはじまりました。そのときに歌われた歌が「サライ」でした。「ふるさと」の詩の内容と「サライ」の詩の内容が重なった授業となりました。

1994年当時、Nさんたちの全体授業の公開授業を行う生徒たちは、部落差別解消への願いを込めて実施する公開授業に「サライ」を作詞した谷村新司さんに公開授業への参加のお願いの手紙を書きました。生徒たちの手紙に対して、仕事で参加できない谷村新司さんから生徒たちに次のようなメッセージが届けられました。

お手紙ありがとうございます。「サライ」が沢山のひとびとに愛されているということと改めて実感しました。当日はリハーサルの為、行けませんが、成功を祈っています。

「夢は夢にあらず」この言葉を贈ります。がんばってください。谷村新司

このときのNさんや森口先生の思いをこめて、今回のフォーラムの最後に参加者全員で「サライ」を歌う予定でしたが、残念ながらフォーラムの時間が延びて歌う時間がありませんでした。

愛知から来た3人は、懇親会の席にギターを持ってきていました。懇親会の最後に愛知の3人がリードして、参加者みんなで肩を組んでギター演奏で「サライ」を歌いました。Nさんや森口先生の思いだけでなく、涙を拭きながらギターをひく愛知の若者の思いや谷村さんの思いが響き渡った合唱になりました。私は、「サライ」を歌いながら、柘植中学校生なら誰でも当たり前のこととしてできる3つの「柘植中スタンダード」のうちの1つを思い浮かべていました。

～自分ごととして人権学習に取り組む～

文責・橋本浩信

# サライ

作詞：谷村新司

作曲：弾厚作

遠い夢すてきれずに故郷をすてた 穏やかな春の陽射しがゆれる小さな駅舎  
 別離より悲しみより憧慄はつよく 淋しさと背中あわせのひとりきりの旅立ち  
 動き始めた汽車の窓辺を 流れてゆく景色だけをじっと見ていた  
 サクラ吹雪のサライの空は 哀しい程青く澄んで胸が震えた  
 恋として恋に破れ眠れずに過ごす アパートの窓ガラス越し見てた夜空の星  
 この街で夢追うならもう少し強く ならなけりゃ時の流れに負けてしまいそうで  
 動き始めた朝の街角 人の群れに埋もれながら空を見上げた  
 サクラ吹雪のサライの空へ 流れてゆく白い雲に胸が震えた  
 離れれば離れる程なおさらつる この想い忘れられずにひらく古いアルバム  
 若い日の父と母に包まれて過ぎた やわらかな日々暮らしをなぞりながら生きる  
 まぶたとじれば浮かぶ景色が 迷いながらいつか帰る愛の故郷  
 サクラ吹雪のサライの空へ いつか帰るその時まで夢はすてない  
 まぶたとじれば浮かぶ景色が 迷いながらいつか帰る愛の故郷  
 サクラ吹雪のサライの空へ いつか帰るいつか帰るきつと帰るから

## 8月、9月の講演会や研修会の案内

- 8月17日(金) 2018 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター  
 「なぜ、人権問題を学ぶのか ~ 自らの生き方を見つめることから~」(大橋久和さん)
- 8月18日(土) 第43回いがまち人権・同和教育研究大会  
 午前・記念講演「自由と可能性の財政改革 ~ 自己責任社会を乗り越えるために~」井出英策さん (10:30~) ふるさと会館いが大ホール  
 午後・分科会 ふるさと会館会場 (同和对策事業・人権啓発担当者になって学んだこと・2016年施行の3つの差別解消法がめざすもの)  
 講座1 (地名総鑑事件・統一応募用紙・就職差別) 講座2 (水平社宣言・糾弾闘争・部落解放)  
 講座3 (部落の文化・食肉産業・識字教室) 講座4 (同和教育・解放奨学金・人権教育)  
 午後の部はすべて13:30~ 講座1~4は壺峰中と柘植中で同じ内容で実施
- 8月23日(木) 第13回伊賀市教育教育研究集会 (15:00 ~) 伊賀市文化会館  
 「部落差別解消法とこれからの同和教育の課題 ~ 部落問題をどう語り、伝えるのか~」(石元清英さん) [関西大学]
- 8月23日(木) 青山文化センター人権・解放講座 (19:30 ~ 21:00) 青山文化センター  
 「性別って2つだけ? ~ 人の数だけ性別がある~」(山口颯一さん) [一般社団法人 ELLY]
- 8月25日(土) 2018 同和问题講演会 (13:30 ~ 21:00) 青山ホール  
 「人権のまちづくりを創造するために」(北口末広さん) [近畿大学人権問題研究所]
- 8月28日(火) いがまち人権・同和问题地区別懇談会リダー研修会 (19:30 ~ 21:00) いがまち公民館  
 体験学習会「身近な人権課題に気づくI」(吉原隆行さん) [反差別・人権研究所みえ]
- 9月1日(土) 上野同和教育研究協議会第33回研究大会 (10:30 ~) 伊賀市文化会館  
 「教育とマスコミから人権を考える」(笹原秀夫さん) [伊賀市教育長]
- 9月14日(金) いがまち解放講座 (19:30 ~ 21:00) いがまち人権センター  
 「当事者が語る部落問題の今 ~ 部落問題を自分事として~」(丸田光昭さん)
- 9月21日(金) 2018 部落解放・人権大学講座 (19:30 ~ 21:00) ゆめぼりすセンター  
 「差別をなくす社会システム」(北口末広さん) [近畿大学人権問題研究所]
- 9月25日(火) いがまち人権・同和问题地区別懇談会リダー研修会 (19:30 ~ 21:00) いがまち公民館  
 体験学習会「身近な人権課題に気づくII」(吉原隆行さん) [反差別・人権研究所みえ]